

# 『脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律』施行記念講演会・シンポジウムの概要

## 1 はじめに

いわゆる、『都市(まち)の木造化推進法』の施行を記念して、第1回目の「木材利用促進の日」に開催された法律施行記念講演会及びシンポジウムの概要は以下のとおり。

## 2 隈研吾氏記念講演 『木が拓く日本の未来』

冒頭、今回の法律改正の意義とその効果について大きな期待を寄せている旨を述べた後、自分が設計した数々の建築物の写真を映しながら、それぞれの特徴や木材利用する際の工夫などについて分かりやすく説明された。特に、木材を使うことで建物に柔らかさが加味されたり、音響上も洗練されるなど、木の持つ魅力は無限大であることが強調された。併せて、昔からの伝統的な継手や仕口加工を活用すれば、構造的に十分な強度が得られること、重量が軽くなることで設計上の自由度が増すことなど、科学的なエビデンスも交えながら、もう一度「木の文化」を取り戻すことの重要性が訴えられた。



当初の予定が変更され、シンポジウムで発言する予定だったメッセージとして、木の可能性をもっともっと引き出していくための設計士や大工等の技能者の育成の必要性に言及された。

## 3 記念シンポジウム

(1) 天羽隆林野庁長官のコーディネートによりシンポジウムが始まられ、最初に長官から、我が国の森林資源の現況や木材利用の実態、利用を促進するための「ウッドチェンジ協議会」の立ち上げや基本計画での位置付けの明確化などについて説明がなされた。

**民間団体・企業のネットワークの立上げ**

○民間建築物における木材利用促進に向け、川上から川下までの各界の関係者が一堂に会し、木材利用拡大に向けた課題や解決方法などについて意見交換を行う民間建築物における木材利用促進に向けた協議会(通称「ウッド・チェンジ協議会」)を9月13日に立上げ。

(2) 続いて、隅(すみ)相談役から、かつて取りまとめた日本林業再生のための提言に基づき、まずは川下の需要拡大に取り組んで来られた実績、木材利用の重要性には理解を示しても中々実際の行動には移されない実態など、川下需要拡大の難しさに言及された後、今回の法律改正への大きな期待を述べられた。特に国を挙げて取り組む体制が整備されること、山側の供給力の強化が進むことへの期待にも触れられた。

**木材利用促進に向けた国民運動の展開**

○木材利用促進月間(10月)が法定されたことを受け、民間企業、業界団体、国、地方公共団体は、10月を中心に様々な行事・イベントや情報発信を予定。(各種メディアを通じたキャンペーン、身近な木材利用やエシカル消費等を普及・啓発する「木づかい運動」など。)

(3) 次に、伊藤(いとう)消費者庁長官から、国交省住宅局長や内閣府の地域創生担当官を経験する中で、木材とりわけ国産材を選択できるような供給体制の整備の重要性と持続可能な森林資源の管理を進めていくことの重要性について言及された後、消費者にもエシカル消費をはじめとする「使う責任」の意識をもっともっと醸成していくことの必要性を主張された。消費者庁としても「賢い消費者」の育成に向けた取り組みを、この法律を契機に拡充していきたいと抱

だまされない消費者 + 自分で考える消費者

SDGsの実現



負を述べられた。

- (4) 林業漫画家の平田さんからは、林業の現場の感覚として、消費者ニーズの把握や木材利用の実態に関する情報収集が弱いとともに、山側の実態を発信する力も足りないこと、もっと分かりやすく一般の消費者の方に伝えていく工夫が「必要と考えて、なじみやすいマンガで発信することにこだわっていることを述べられた。



- (5) 長官から、それぞれの立場から、法律改正を機に一般国民に向けたメッセージを求められたパネリストからは、まず隅相談役から、「燃えるとか折れる、長持ちしない」と言った国民の常識を 180 度変えていく取組みを続けていくこと、併せて地方創生の観点から森林環境税の一層の活用について提案がなされた。続いて伊藤長官から、「今だけ、ここだけ、私だけ」という発想から抜け出し、「未来のため、地域のため、みんなのため」という意識の転換が大切であることを強く述べられた。さらに、漫画家の平田さんからは、森林や林業をもっと身近に感じてもらうためのマンガ作りやマンガを通じた他業種や他分野の方達とのネットワークづくりに励んでいくとの方針が示された。

最後に長官から、都市ビルでの木造・木質化が当たり前の時代になるよう、法律改正の趣旨を踏まえた行政の取組みをさらに強化・拡充していくこと、発信力を高めること、一層川上～川中～川下の連携強化に取り組む決意が示され、シンポジウムを閉じた。

モノ消費 → コト消費 → トキ消費

Do Be

商業施設(ショッピングモール内「木の室内創造遊び場」(宮城県仙台市)) 平成29年



#### 4 締め言葉

最後に、実行委員会の大野年司（おおのとしじ）副委員長から、本日学んだ示唆や助言を活かして、業界一丸となって都市の木造化にまい進していく心構えが述べられて、記念講演及びシンポジウムを無事終了した。

#### ※ 参考情報

- 会場参加者 約 270 名（一般 120 名程度、森林・林業・建築業界 150 名程度、マスコミ関係 5 社程度）
- WEB参加者 約 530 名程度